

緊急度判定体系普及ガイドブック



救急医療相談

医療機関案内



平成 29 年 3 月

消 防 庁

■□目 次□■

第1章 はじめに	1
1. 作成の目的	1
第2章 救急車利用の現状（データ）	1
1. 救急出動件数は継続的に増加	1
2. 搬送時間も継続的に延伸	2
3. 救急搬送人員数は、20 年間継続して約半数が「軽症」	2
4. 高齢者の搬送人員数は、20 年前と比べるとほぼ倍増	3
第3章 救急車の役割（関係する法令）	4
第4章 緊急度判定体系とは？	5
1. 「緊急度」とは	5
2. 緊急度の類型とその定義	6
3. 緊急度判定体系の体系図	7
第5章 緊急度判定体系普及の必要性	8
1. 救急要請や病院受診に「迷った経験」がある方が多い	8
2. 救急車の要請理由	9
第6章 緊急度判定体系の概念普及コンテンツの紹介	10
1. 紙芝居	10
2. 短編アニメーション	11
3. 動画（6 分版と 15 秒版）	12
4. 小冊子	14
第7章 緊急度判定プロトコルの紹介	15
1. 家庭自己判断プロトコル（救急受診ガイド）	15
2. 電話相談プロトコル	16
3. 119 番通報プロトコル	17
4. 救急現場プロトコル	18
第8章 緊急度判定支援ツールの紹介	19
1. 救急受診ガイド 2017 年版	19
2. 緊急度判定支援アプリ（アプリ版、Web・スマホ版）	20
3. 救急車利用リーフレット	22
4. 救急情報シート	23

第9章 情報発信手段について	25
1. 情報発信対象の整理	25
2. 概念普及コンテンツの使用方法	26
3. 緊急度判定支援ツールの配布方法	26
4. 消防本部の各種行事での普及啓発の機会	27
第10章 Q&A	28
第11章 付録	31
住民への説明ツール（PowerPoint）	31

第1章 はじめに

1. 作成の目的

緊急度判定体系の普及ガイドブック（以下、「ガイドブック」と言います。）は、「緊急度判定体系とは何か、なぜ必要なのか」について、消防職員や医療関係者などの「住民に説明する立場」の方が、緊急度判定体系に関する理解を深め、積極的に普及啓発を実施していただけるよう支援することを趣旨として作成しました。

緊急度判定の基準（プロトコル）は、消防庁の消防防災技術研究推進制度の研究において、救急医療を専門とする医師や消防本部の代表による医学的観点に基づき策定されています。

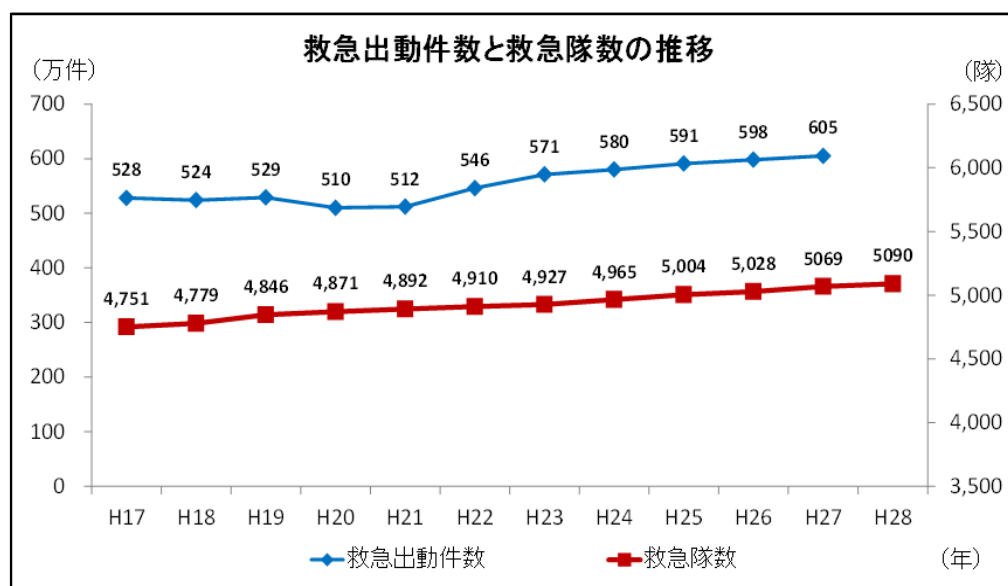
地域の限られた救急車を有効に活用し、「緊急性の高い傷病者にできるだけ早く救急車が到着できるようにする」「住民が適切なタイミングで医療機関を受診できるよう支援する」この2つを社会で実現していくために、本ガイドブックを参考として、是非とも、積極的な普及にご協力願います。

第2章 救急車利用の現状（データ）

1. 救急出動件数は継続的に増加

平成 27 年の救急出動件数は約 605 万件で過去最高となり、10 年前と比較して約 15%増加しています。しかし、救急隊数は、平成 28 年 4 月 1 日現在 5,090 隊で、10 年前と比較して約 7%の増加にとどまっており、救急出動件数の増加に比べ救急隊が増加していない状況にあります。

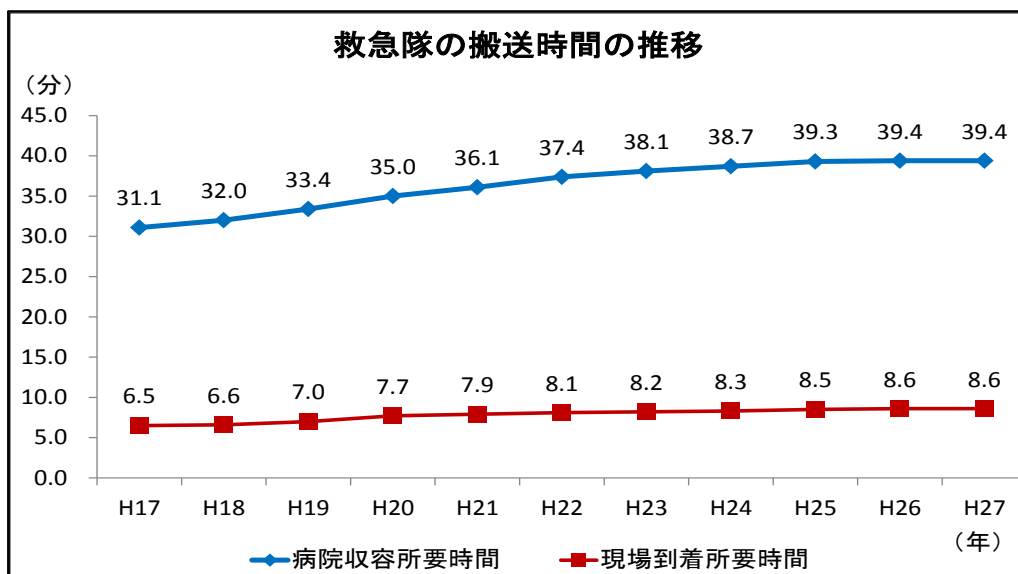
図表 1 救急出動件数と救急隊数の推移



2. 搬送時間も継続的に延伸

また、平成 27 年の現場到着所要時間は 8.6 分で、10 年間で 2.1 分延伸、病院収容所要時間は 39.4 分で、10 年間で 8.3 分延伸しています。

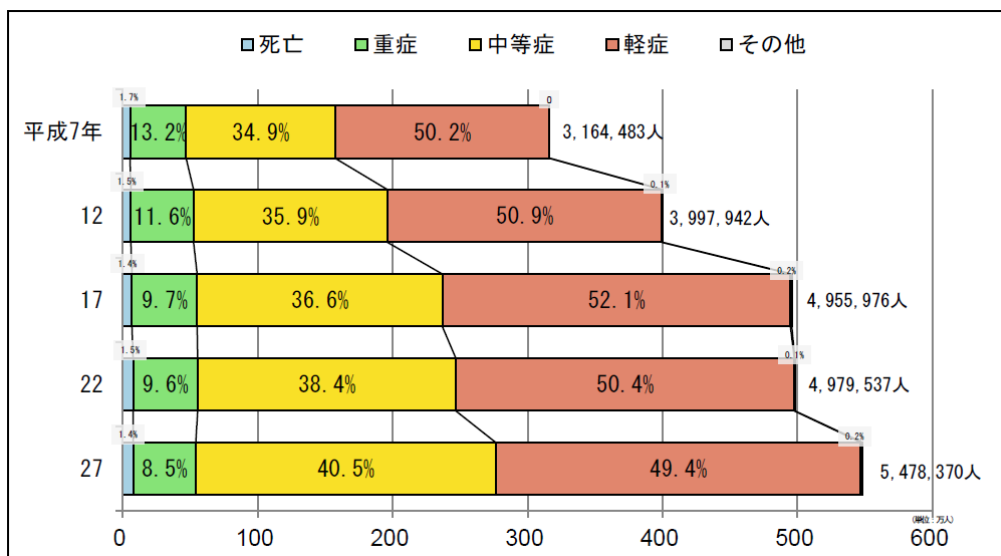
図表 2 救急隊の搬送時間の推移



3. 救急搬送人員数は、20 年間継続して約半数が「軽症」

平成 27 年の救急自動車による搬送人員数の内訳を傷病程度別に見ると、約半数が「軽症」となっています。

図表 3 傷病程度別の搬送人員数推移

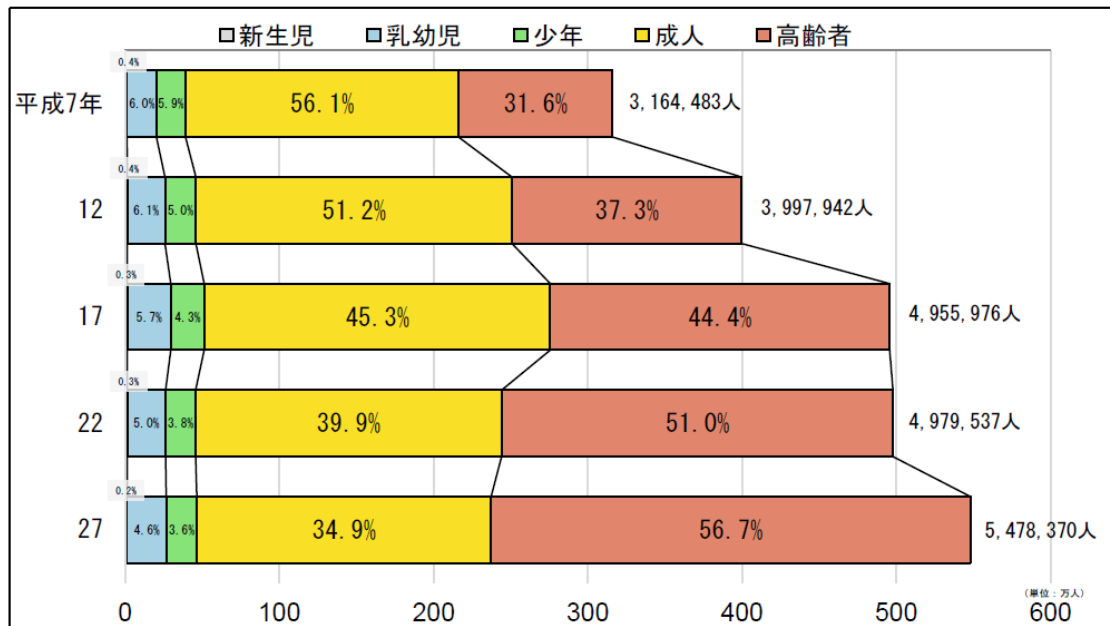


4. 高齢者の搬送人員数は、20 年前と比べるとほぼ倍増

内訳を年齢区分別で見ると、約 6 割が「高齢者」となっています。高齢者の割合は年々高まる傾向にあり 20 年前と比較するとほぼ倍増しています。

これらの事実を強く意識した上で、様々な取組を行うことが必要となります。

図表 4 年齢区分別の搬送人員数推移



第3章 救急車の役割（関係する法令）

救急車は、消防法に定義される「救急業務」を果たすために用いられることが望まれます。具体的には、緊急に搬送する必要がある傷病者を迅速に医療機関その他の場所へ搬送するために用いることが望まれます。

「緊急」の判断の基準においては、医学的に担保された緊急度判定プロトコル ver. 2 の活用が望まれます。

（消防法第2条第9項）

救急業務とは、災害により生じた事故若しくは屋外若しくは公衆の出入する場所において生じた事故（以下この項において「災害による事故等」という。）又は政令で定める場合における災害による事故等に準ずる事故その他の事由で政令で定めるものによる傷病者のうち、医療機関その他の場所へ緊急に搬送する必要があるものを、救急隊によつて医療機関（厚生労働省令で定める医療機関をいう。第7章の2において同じ。）その他の場所に搬送すること（傷病者が医師の管理下に置かれるまでの間において、緊急やむを得ないものとして、応急の手当を行うことを含む。）をいう。

（消防法施行令第42条）

法第2条第9項の災害による事故等に準ずる事故その他の事由で政令で定めるものは、屋内において生じた事故又は生命に危険を及ぼし、若しくは著しく悪化するおそれがあると認められる症状を示す疾病とし、同項の政令で定める場合は、当該事故その他の事由による傷病者を医療機関その他の場所に迅速に搬送するための適当な手段がない場合とする。

第4章 緊急度判定体系とは？

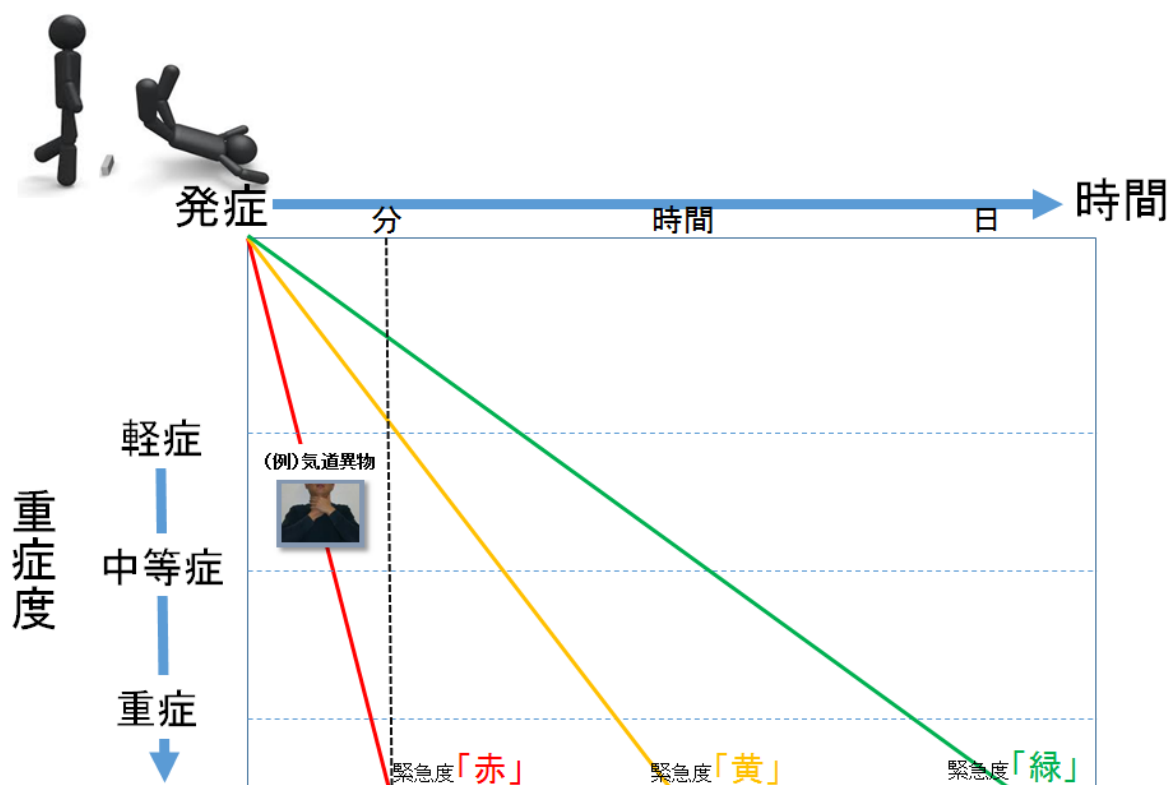
1. 「緊急度」とは

「緊急度」とは、重症化に至る速さ又は重症化を防ぐための時間的余裕を表して、**「時間」**の経過による症状の変化の度合に着目した言葉です。

混同しやすい言葉として「重症度」がありますが、こちらは一般的に「病態が生命予後又は機能予後に及ぼす程度」と定義され、時間の概念を含みません。この点が両者の明確な違いとなります。

下図は、緊急度の概念を表しています。横軸は発症からの時間経過、縦軸は重症度を表しています。黒色の縦の点線をみると、発症から数分経過した時点で、緊急度「赤」の重症度は既に重症となっていますが、緊急度「黄」及び「緑」の重症度は軽症となっています。つまり、緊急性の高い症状ほど重症化が速いため、一刻も早く医療機関に行く必要があります（救急要請の必要がある）。一方で、緊急性の低い症状であれば、時間的余裕があるため、自力での受診が可能です（救急要請の必要がない）。

図表 5 緊急度の概念図



2. 緊急度の類型とその定義

緊急度は、3段階に色分けして類型化することができます。

具体的には、緊急性が高い順から「赤（緊急）」「黄（準緊急）」「緑（低緊急）」となっていて、信号機のイメージで捉えることができます。

各段階の定義も、医学的観点に基づき下図のとおり明確化されています。

なお、上記の3色に加えて「白（非緊急）」もあるが、これはすなわち医療を必要としない状態を表します。

図表 6 緊急度の類型とその定義

類型（緊急度）	定義
赤 （緊急）	すでに生理学的に生命危機に瀕している病態 病態が増悪傾向にあり、急激に悪化、急変する可能性のある病態 ※ 痛み等のがまんできない訴え、症状についても考慮 ※ バイタルサイン異常、ひどい痛み、病態の増悪傾向、急変の可能性を総合的に考える
黄 （準緊急）	2時間を目安とした時間経過が生命予後・機能予後に影響を及ぼす病態。 ※ 痛み等のがまんできない訴え、症状についても考慮
緑 （低緊急）	上記には該当しないが、診察が必要な病態
白 （非緊急）	上記に該当せず、医療を必要としない状態

平成24年緊急度判定体系実証検証事業報告書（消防庁）より抜粋

3. 緊急度判定体系の体系図

傷病者が医療機関へ救急搬送されるまでの間には、緊急度を判定する場面が大きく4つ（家庭自己判断、電話相談、119番通報及び救急現場）あります。

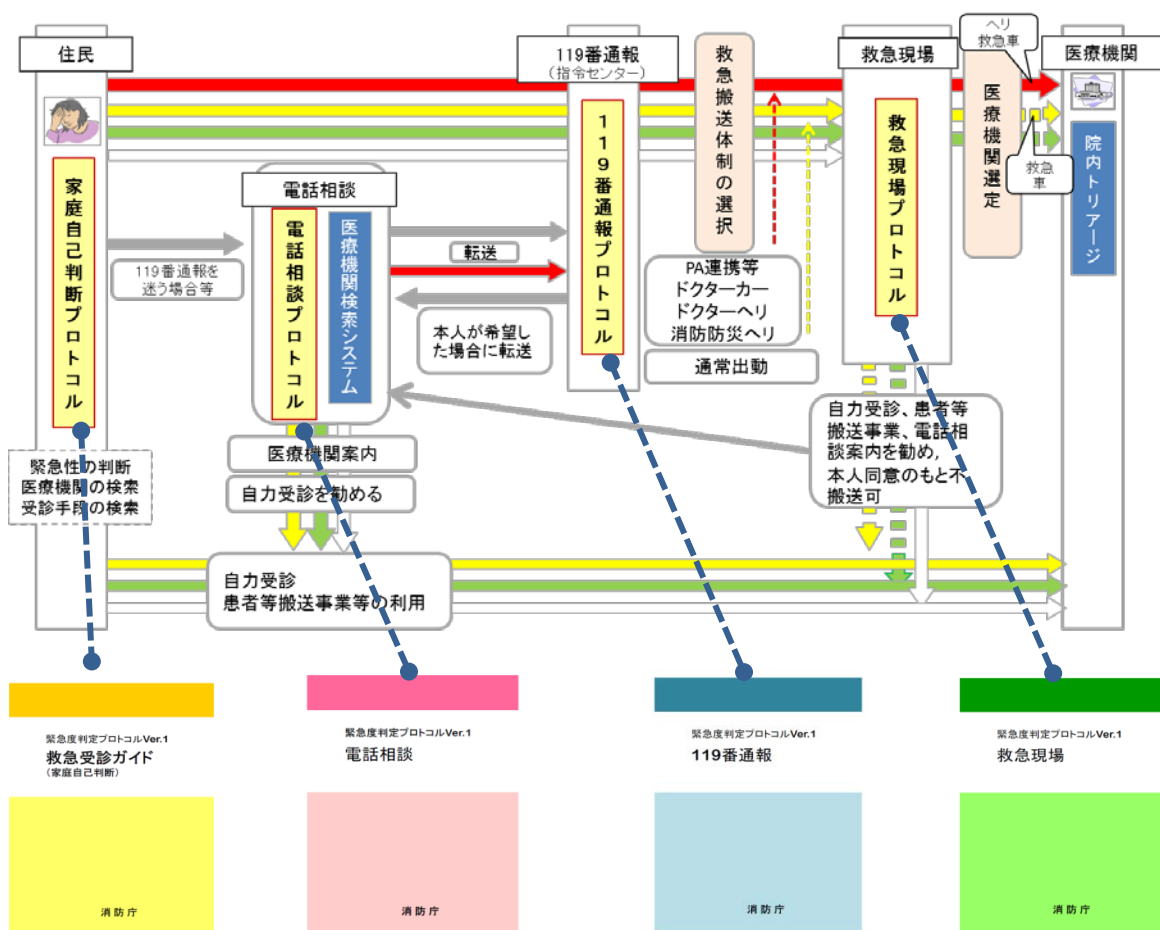
救急搬送までの一連の流れの中に、各場面における緊急度判定に関するプロトコル（手順）を組み込み、体系的に整理した図を以下に示します。

なお、下図に記載のある「院内トリアージ」とは、医療機関において、患者の緊急度を判定し、緊急度に応じて診療の優先順位付けを行う取組です。医療機関でも同じように緊急度の判定を行い、適切に救急医療を提供しています。

各プロトコルは、消防庁の研究班が作成したものであり、救急医療の専門医師による医学的観点に基づく内容となっています。

それぞれの場面で積極的に活用してくださいますようお願いします。

図表 7 緊急度判定体系の体系図



※プロトコルの表紙の画像は ver.1 を使用

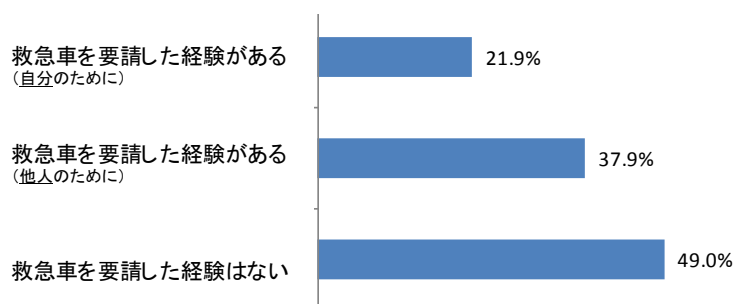


第5章 緊急度判定体系普及の必要性

1. 救急要請や病院受診に「迷った経験」がある方が多い

市民 Web アンケート調査によると、約6割が救急要請をした経験があると回答しています。また、そのような場面に遭遇した方のうち、半数以上が救急要請や病院受診について「判断に迷ったことがある」と回答しています。

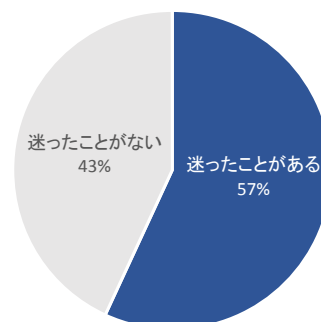
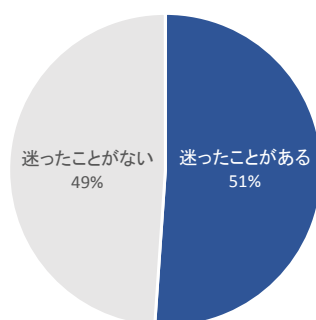
図表8 救急要請経験の有無



図表9 判断に迷った経験の有無

急な病気等に遭遇した際の救急要請の判断

病院受診の判断



2. 救急車の要請理由

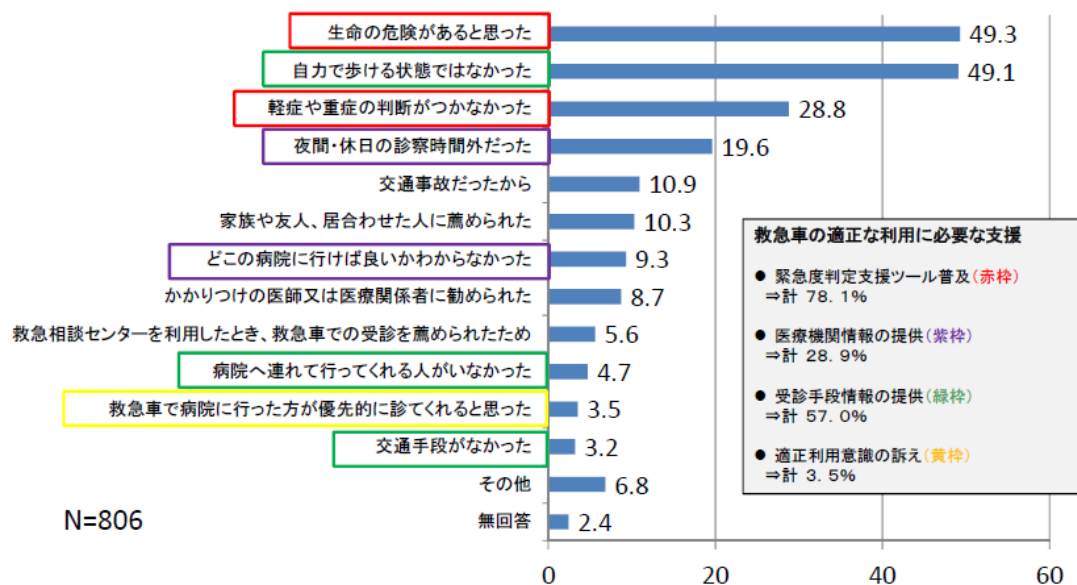
東京消防庁による救急車の要請理由についての世論調査の結果において、「生命の危険があると思った」又は「軽症や重症の判断がつかなかった」と回答した者については、緊急度判定を行うことにより救急要請を回避できた可能性があります。

「自力で歩ける状態ではなかった」、「病院へ連れて行ってくれる人がいなかった」又は「交通手段がなかった」と回答した者については、受診手段の情報を提供することにより救急要請を回避できた可能性があります。

また、「夜間、休日の診察時間外だった」又は「どこの病院に行けば良いかわからなかった」と回答した者については、医療機関の情報を提供することにより救急要請を回避できた可能性があります。

一方で、「救急車で病院に行った方が優先的に診てくれると思った」と回答した者については、救急車の適正利用を訴える必要があります。

図表 10 救急車の要請理由



出典：東京消防庁：平成 27 年「消防に関する世論調査」結果概要より作成

第6章 緊急度判定体系の概念普及コンテンツの紹介

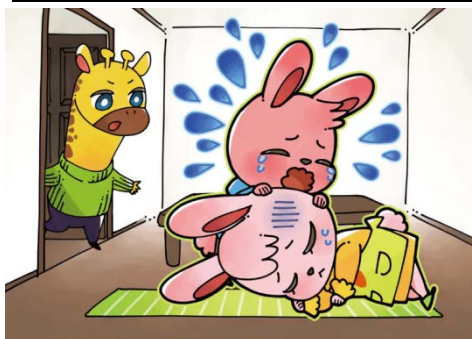
前述の課題を踏まえ、対象に応じて、以下のとおり「紙芝居」、「短編アニメーション」、「動画（6分版・15秒版）」、「小冊子」及び「ガイドブック」を作成しました。各コンテンツは、消防庁 HP に掲載しています。

1. 紙芝居

紙芝居は、保育園児・幼稚園児を対象として、「救急車はどんなときに使う車か?」「どんな仕事をする車か?」を伝えることを趣旨として作成しました。なお、印刷用のデータ及び音声付きの上映用のデータ（電子紙芝居）の2種類を作成しました。概要は以下のとおりです。

（あらすじ）

突然、目の前でお母さんが苦しみ倒れてしまい、慌てるウサギの子供。隣に住むキリンさんの119番通報で駆けつけた救急車のQ助の活躍のお陰で、お母さんはすぐにクマ先生に診てもらうことができた。救急車の不適正な利用例も示しながら、救急車が「命を助ける大切な乗り物」というメッセージを伝える。（全11枚）



（3枚目）ウサギのお母さんが倒れる



（4枚目）キリンさんが通報



（7枚目）Q助が急いで病院へ向かう



（10枚目）不適正な利用例

※紙芝居の最終ページには、救急車が「命を助ける大切な乗り物」であることを伝えるメッセージも入れられています。

(想定される使い方) ※P.25 の「第 9 章.情報発信手段について」も参照

保育士及び幼稚園教諭のほか、避難訓練又は救命講習で訪問した消防職員等が活用することが想定されます。印刷又はスクリーンへ投影し紙芝居のように読み聞かせること及び音声付きの電子紙芝居を上映することが想定されます。

2. 短編アニメーション

短編アニメーションは、小学生を対象として、救急車の使い方について考えてもらうことを趣旨として作成しました。概要は以下のとおりです。

(あらすじ)

お母さんが交通事故で大怪我をし、病院に救急車で搬送された。そこで、主人公じゅんくんは、風邪を引いただけの若者が、お金がないからという理由で同じように救急車で搬送されてきたのを見た。

救急車の使い方に疑問を持ったところ、ちょうど学校の行事で消防署に行く機会があった。そこでじゅんくんは救急隊員に質問した。



お母さんが交通事故に遭い大怪我をする



救急車で救急搬送される



風邪を引いた若者が救急車を利用



じゅんくんが救急隊員に質問する

(想定される使い方) ※P.25 の「第 9 章.情報発信手段について」も参照

小学校での出前授業で上映すること又は小児科の外来のデジタルサイネージ（電子看板）で流してもらうことが想定されます。

※紙芝居と短編アニメーションに共通すること

園児～小学生を対象に「救急車」のことを考えてもらうために「クイズ（回答例付き）」を作成しています。なお、正解・不正解が目的ではなく、あくまで「考えてもらうこと」を目的としています。クイズを利用するか、また、どのクイズを利用するかは聴き手の年齢及び理解度に応じて選択することができます。クイズについても消防庁 HP に掲載しています。

3. 動画（6 分版と 15 秒版）

動画（6 分版・15 秒版）は、中学生以上の成人を対象に、緊急度判定体系の概念及び重要性を伝えることを趣旨として作成しました。各々の概要は以下のとおりです。

【動画（6 分版）】

（あらすじ）

ボジョレーと消太の 2 人が、一般の住民が緊急性の判断に悩む具体的なケースを踏まえ、緊急性を判断することの難しさと、だからこそ緊急度判定体系ができたことを伝える。さらに、緊急度の分類や緊急度判定プロトコルの成立ちを分かりやすく説明するとともに、緊急度判定支援ツールの紹介も行い、概念の普及と住民による緊急度判定を促している。



2 つの具体例を提示



緊急度の 3 つの分類



緊急度判定体系ができた



判定を支援するツールを紹介

【動画（15 秒版）】

（あらすじ）

緊急性の高い症状から低い症状まで、色々な訴えで 119 番通報する人たちがいる。その症状は、本当に緊急なのか、緊急度について考えてもらうことを伝えている。



指令室の電話が鳴り響く



色々な緊急性の症状で救急要請



色々な緊急性の症状で救急要請



緊急度を問いかけ、考えさせる

（想定される使い方）※P.25 の「第 9 章.情報発信手段について」も参照

いずれの動画に関しても、応急手当講習会や出前講座、市民向け講座等での活用が想定される。また、ウェブサイト等（関係団体のホームページ、ブログ、ツイッター等）への掲載のほか、医療機関、公共交通機関、商業施設等のデジタルサイネージ（電子看板）で流してもらうことも想定される。

4. 小冊子

比較的「読み物」に慣れている者（主に高齢者）を対象に、救急要請に関する事例を中心に、詳しく知りたい者に向けた参考情報も掲載した小冊子を作成しました。概要は以下のとおりです。

（目次）

第1章 はじめに

第2章 実際にあった救急要請の事例

（緊急性の高い事例、低い事例、不適正な
救急要請の事例：計 12 例）

参考情報 1：緊急度判定体系とは？

参考情報 2：詳しく知りたい方のために



緊急性の高い事例（一例）

<職場で同僚が胸痛を訴えていると同僚が救急要請>

61 歳の男性で、同僚の方からの通報でした。

仕事中、胸痛を発症したため、救急要請したとのこと。現場に到着し、傷病者を観察すると、顔面蒼白で冷や汗を認め、持続する胸痛を訴えていました。脈拍が弱く、最高血圧も 80 台と低いと、観察結果から心筋梗塞を疑い、循環器の病気に対応ができる総合病院へ搬送しました。

数か月後、消防署に来署され、大変元気な姿を見せていただきましたが、話を聞くと、心筋梗塞と診断され手術を受け入院したとのことでした。

緊急性の低い事例（一例）

<筋肉痛のための市販薬で強くかぶれ救急要請>

40 歳代男性が自宅前の道路上に立っていて、自力歩行で救急車に乗車しました。状況を聞くと「筋肉痛のため数日前に市販の痛み止めの塗り薬（液）を塗ったところ、強くかぶれた。痛みは治まったが心配だ。皮膚科に行こうとも思ったが、救急車を要請した。」という説明を受けました。薬を塗ったふくらはぎは乾燥状態で熱感はありません。ご本人も痛みはなく、歩行にも影響はないと言われました。

（想定される使い方）※P.25 の「第 9 章.情報発信手段について」も参照

消防職員や医療関係者のほか、民生委員、自治会・老人会役員、ケアマネジャー等から、高齢者に配布してもらうことが想定される。

第7章 緊急度判定プロトコルの紹介

以下に、緊急度判定プロトコル ver.2 と救急受診ガイド 2017 年版の概要を紹介し
ます。なお、これらのプロトコルは救急医療の専門医師による医学的観点に基づく内
容となっています。

是非とも自信を持って普及啓発を進めてくださいますようお願いします。

1. 家庭自己判断プロトコル（救急受診ガイド）

(1) 目的

本プロトコルは、住民が自らの又は他者の緊急性を感じる事態に遭遇した際、その緊急性を判定し、その後取るべき対応を判断しやすくすることを目的としています。

(2) 内容

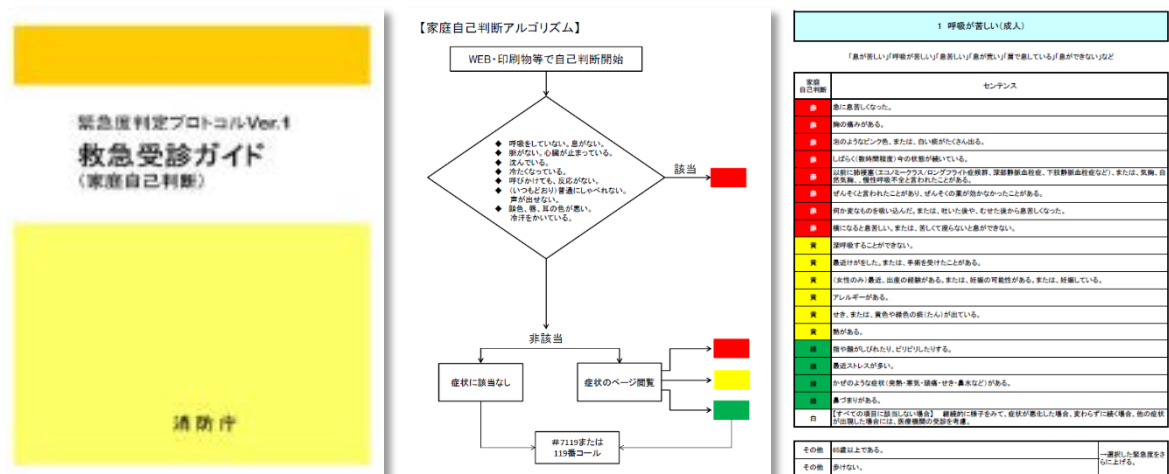
ver. 1 からの主な変更点は、①プロトコル数の増加、②想定疾患の追記及び③質問内容（プロトコルコード）の改訂です。

①について、救急安心センター事業（＃7119）の先行実施地域において使用頻度が上位 20 位に入るプロトコルを平易な表現に修正して追加しました。小児に特化した 6 のプロトコルなど、計 34 のプロトコルを ver. 1 に追加し、全 68 のプロトコルとしました。

②について、ver. 1 では想定疾患が記載されていないプロトコルがありましたが、ver. 2 では全てのプロトコルに想定疾患を記載しました。

③について、主に小児に特化したプロトコルに対して、救急安心センター事業（＃7119）の先行実施地域のデータに基づき過大評価傾向にあったプロトコルコードの改訂を行いました。

図表 11 参考：家庭自己判断プロトコル Ver.1



2. 電話相談プロトコル

(1) 目的

本プロトコルは、医療従事者による救急電話相談の際、傷病の緊急度及びその結果に基づいて提供する情報を標準化することを目的としています。

(2) 内容

本プロトコルは、医療従事者が電話を介して傷病の緊急度を判定する状況であれば、看護師、医師などの職種及び救急外来、民間コールセンターなどの場所を問わず利用できるものとなっています。

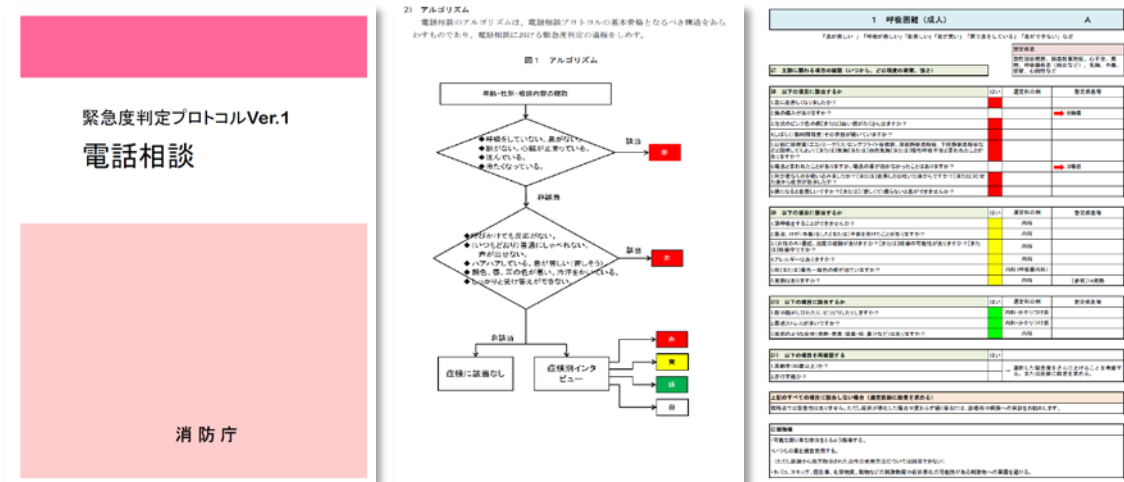
ver. 1 からの主な変更点は、①赤類型判定後の選定科の記載、②想定疾患の追記及び③質問内容（プロトコルコード）の改訂です。

①について、これまで赤類型判定の場合は、救急車の要請を推奨することのみを想定していたため、ほぼ全てのプロトコルにおいて選定科（受診すべき科）を記載していませんでした。しかし、赤類型判定の傷病者が自力での受診を希望する場合があるため、選定科を記載しました。（基本的には救急科）

②について、ver. 1 では想定疾患が記載されていないプロトコルがありましたが、ver. 2 では全てのプロトコルに想定疾患を記載しました。

③について、主に小児に特化したプロトコルに対して、救急安心センター事業（#7119）の先行実施地域のデータに基づき過大評価傾向にあったプロトコルコードの改訂を行いました。

図表 12 参考：電話相談プロトコル Ver.1



3. 119 番通報プロトコル

(1) 目的

本プロトコルは、指令業務において、傷病者の緊急度を判定し、その緊急度に応じて対応する必要があることから、指令員の緊急度判定に関する知識及び技術の標準化を目的としています。

(2) 内容

本プロトコルは、119 番通報の際、迅速かつ漏れなく傷病者の緊急度を判定するため、最も緊急性の高い症候及び頻度の高い症候についての標準的な聴取の手順を示したものです。

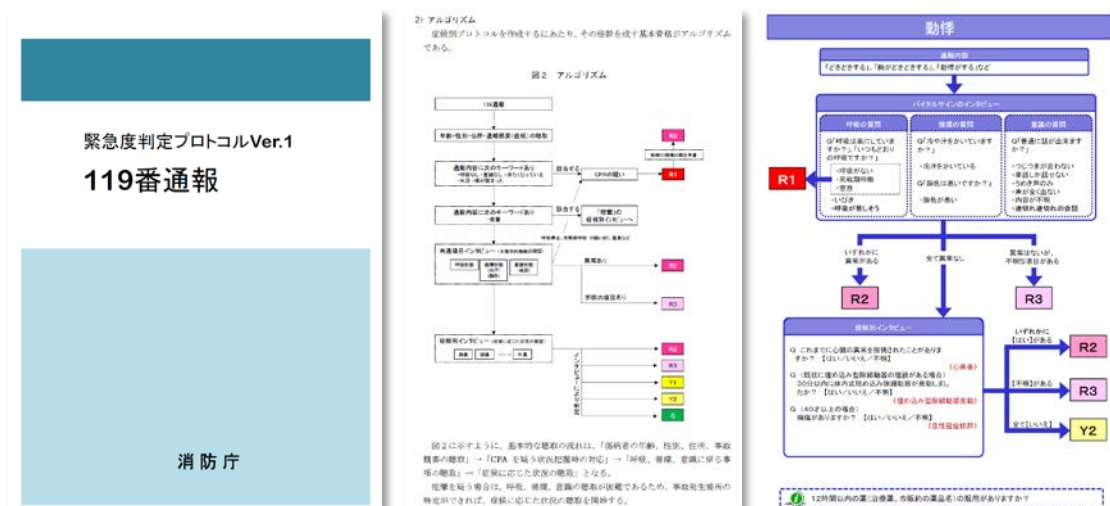
ver. 1 からの主な変更点は、①プロトコル数の増加、②症状等に適した口頭指導の追記及び③情報を聴取するための合理的な手順を追記しました。

①について、消防庁のアンケート調査結果等に基づき、「下血・血便」、「具合が悪い・気分が悪い」、「外傷」及び「中毒」の4つのプロトコルを追加しました。

②について、傷病者の状態に応じた医学的に適切な口頭指導の実施が求められているため、口頭指導を行うタイミング及びその種類を追記しました。

③について、傷病者に直接接する前に得ておきたい情報を過不足なく聴取できるようにするため、合理的な手順を追記しました。

図表 13 参考：119 番通報プロトコル Ver.1



(1) 目的

(2) 内容

ver. 1 から大きな変更はありませんが、本プロトコルの位置づけを明確にしました。

[illegible]

第8章 緊急度判定支援ツールの紹介

1. 救急受診ガイド 2017 年版

消防庁では、急な病気やけがをして「病院を受診した方がいいか?」「救急車を呼んだ方がいいか?」と迷ったときに、ご自身の判断の一助になることを目的に救急受診ガイド 2017 年版を作成しています。プロトコルについては、緊急度判定プロトコル ver. 2 (家庭自己判断) を基に作成しています。なお、救急受診ガイド 2017 年版は、完成した後、消防庁 HP に掲載する予定です。

図表 15 参考：救急受診ガイド 2014 年版



2. 緊急度判定支援アプリ（アプリ版、Web・スマホ版）

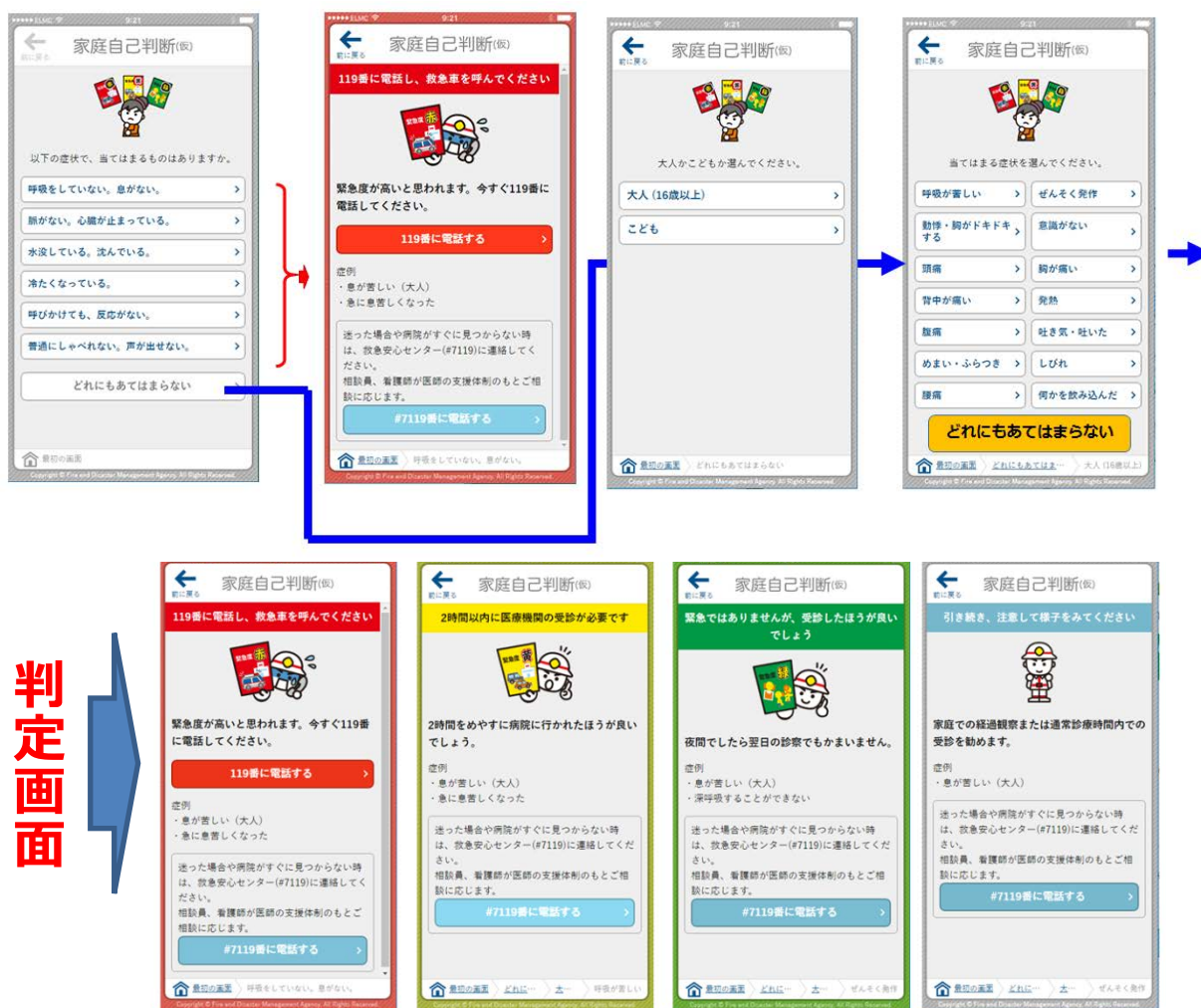
消防庁では、住民の緊急度判定を支援し、利用できる医療機関及び受診手段の情報を提供するため、緊急度判定プロトコル ver. 2（家庭自己判断）を基に救急受診ガイド 2017 年版のアプリ版（Web・スマホ版）を制作しています。

機能の概要としては、該当する症状及び症候を画面上で選択していくと、緊急度に応じた必要な対応（「いますぐ救急車を呼びましょう」、「できるだけ早めに医療機関を受診しましょう」）又は「緊急ではありませんが医療機関を受診しましょう」が表示されます。その後、医療機関の検索（隣県の情報も閲覧できるように、厚生労働省の「医療情報ネット」にリンク）や、受診手段の検索（一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会の「全国タクシーガイド」にリンク）を行うことができるようになっています。

図表 16 全国版救急受診アプリ（Web・スマホ版）の概要図



図表 17 全国版救急受診アプリの画面変遷図（イメージ）



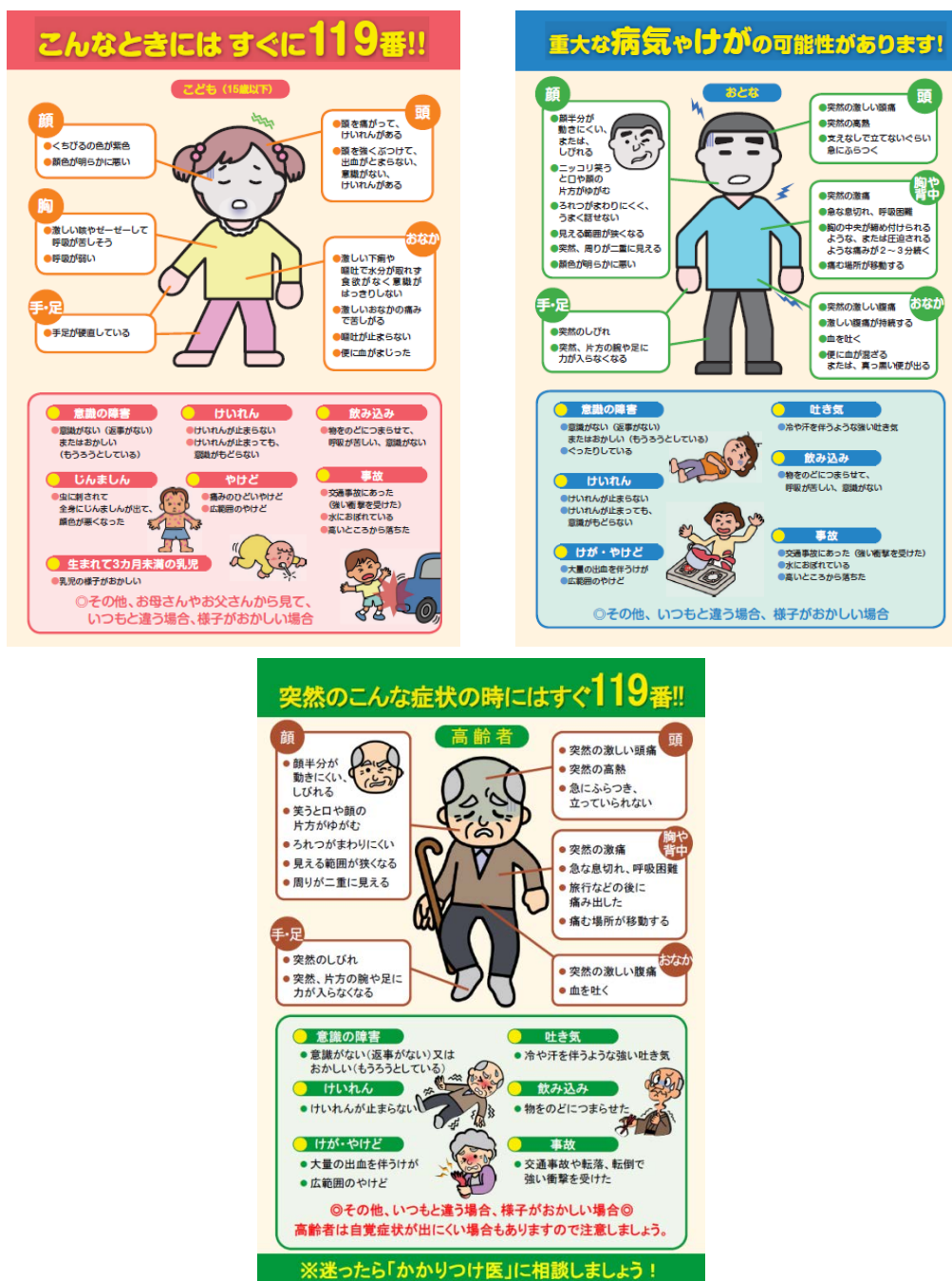
住民への広報については、消防庁で広報用のチラシ及び動画（15 秒）を作成し、消防庁 HP に掲載するため、各団体は積極的に住民に周知してください。

3. 救急車利用リーフレット

救急車利用リーフレットは、迷わずに救急車を利用すべき病気の症状やけがについて、子供、成人、高齢者のそれぞれの特性を踏まえて整理しています。

前述の救急受診ガイドの内容を踏まえた、概要版と位置付けられるツールであり、緊急に医療機関を受診すべき症状のときに、すぐに救急車を呼んでもらうことを目的としています。

図表 18 救急車利用リーフレット(子供、成人、高齢者版)



4. 救急情報シート

前述の「救急車利用リーフレット」のような汎用性の高い情報に加え、より効果的に緊急度判定を支援するため、個人の持病等に係る緊急度判定を支援する情報が必要であると考えられます。

医療機関の医師、看護師等が、患者ごとに必要事項を記入し、患者へ渡す形での活用を想定しており、消防庁の HP から Excel ファイルでダウンロードが可能となっています。

また、医療機関ごとに、適宜使いやすい形に修正・加工した上での活用を想定しており、前述の救急車利用リーフレットを表に、救急情報シートを裏に印刷して配布することなどが想定されます。

図表 19 救急情報シート（様式）

_____さんへ

●こんな症状が出たら、_____

医療機関記載欄

●こんな症状が出たら、_____

医療機関記載欄

●各種連絡先

夜間・休日を受診が必要なとき		
受診が必要が迷ったとき		
救急車以外の受診手段		
緊急連絡先		

【記入例】

_____ 霞が関クリニック _____ より

消防 太郎 _____さんへ

●こんな症状が出たら、すぐに救急車等で受診してください。

医療機関記載欄

・胸が締め付けられる、押される感じがある。

・胸が割るような痛みがある。

・血の混じった痰が出てきた。

●こんな症状が出たら、当院にご相談ください。

医療機関記載欄

・深呼吸、または、せきによって胸が痛む。


・せき、または、黄色や緑色の痰が出ている。

・痛みの部分がはっきりしている。

●各種連絡先

夜間・休日を受診が必要なとき	休日夜間診療所	*****
	霞ヶ関市立病院	*****
受診が必要が迷ったとき	霞ヶ関救急相談センター	*****
	霞ヶ関クリニック	*****
	霞ヶ関タクシー	*****
救急車以外の受診手段	霞ヶ関福祉タクシー	*****
	霞ヶ関急病後援事業所	*****
緊急連絡先	消防 一郎	*****
	消防 花子	*****

Webやスマホで簡単に症状の緊急度の判断を支援してくれるツールもあります

全国版救急受診アプリ（Web、スマホ版）、救急受診ガイド2016年版⇒ 

※冷蔵庫や電話機の上など目につくところに貼っておいてください。お大事に

図表 20 救急情報シート（様式）の加工作業イメージ

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 ACROBAT

貼り付け 切り取り コピー 書式のコピー/貼り付け グループボード

MS Pゴシック 16 A A

B I U 背景色 文字色 下線 上付き

折り返して全体を表示する セルを結合して中央揃え

配置

F5

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1														
2										より				
3			さんへ											
4														
5			●こんな症状が出たら、											
6			医療機関記載欄											
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14			●こんな症状が出たら、											
15			医療機関記載欄											
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24			●各種連絡先											
25														
26			夜間・休日に受診が必要とき											
27														
28			受診が必要が迷ったとき											
29														
30			救急車以外の受診手段											
31														
32														
33			緊急連絡先											
34														
35														
36			Webやスマホで簡単に症状の緊急性の判断を支援してくれるツールもあります											
37			全国版救急受診アプリ（Web、スマホ版）、救急受診ガイド2016年版⇒											
38														
39			※冷蔵庫や電話機の上など目につくところに貼っておいてください。お大事に											
40														
41														
42														

すぐに救急車等で受診してください。
すぐに当院を受診してください。

当院にご相談ください。
#71191にご相談ください。
2時間以内を目安に受診してください。

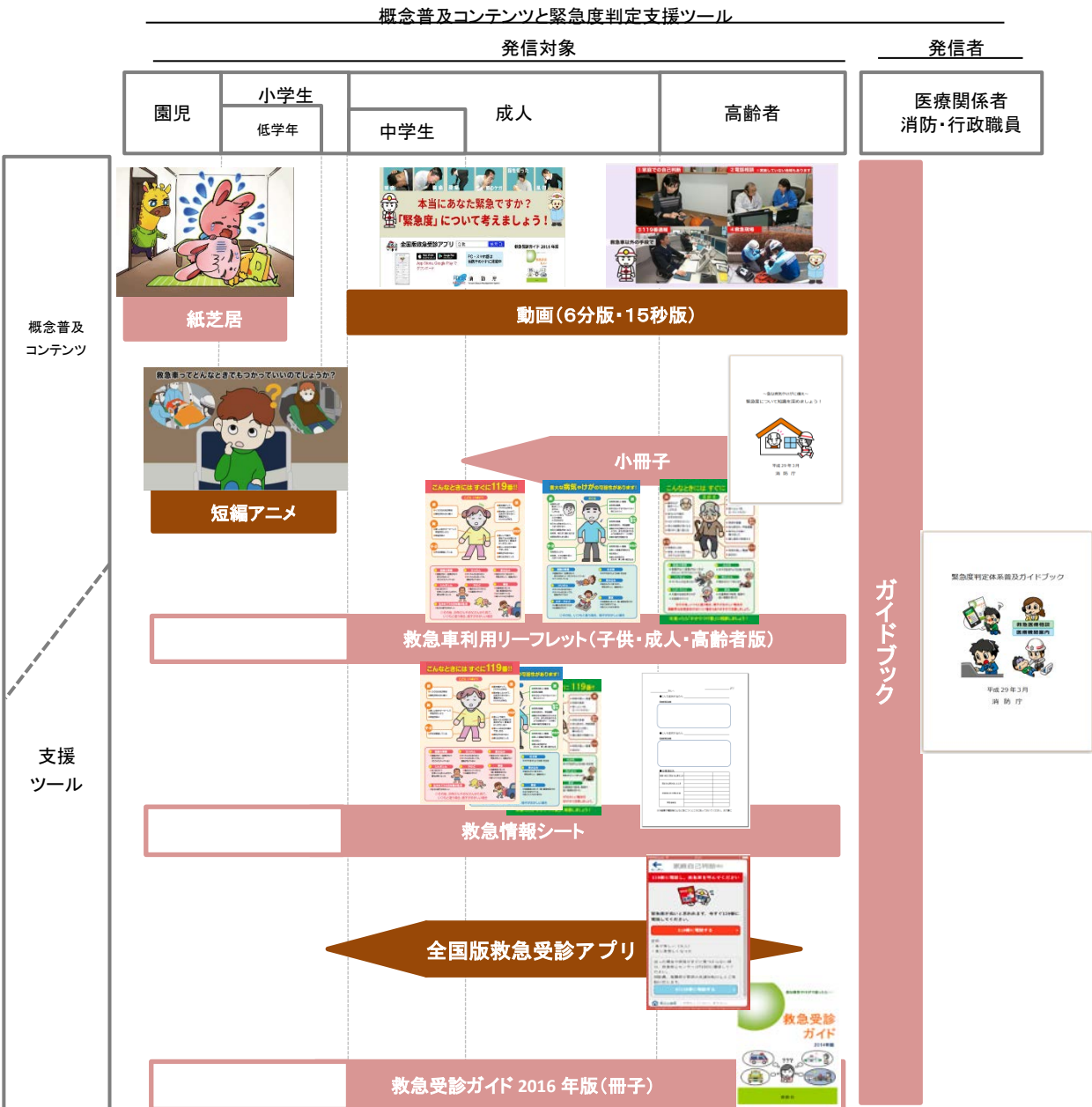
様式 記入例

第9章 情報発信手段について

1. 情報発信対象の整理

これまでに示した各コンテンツ・ツールの情報発信対象について、以下のとおり整理しました。

図表 21 情報発信対象の整理



※画像は 2014 年版

2. 概念普及コンテンツの使用方法

概念普及コンテンツの使用方法として、各コンテンツの特性を踏まえた普及啓発の例を以下に示します。

下記を参考として、概念普及コンテンツを積極的に活用し、概念を普及してください。

図表 22 概念普及コンテンツの使用方法

	何から(手段)	誰に	何を使って(一例)
▶ 不特定多数の人に向けた普及啓発	ウェブサイト等	関心の高い方、関係者	動画(3分、15秒版)
	関係団体HP		
	ブログ・動画サイト・ツイッター	インターネット層(若年層・無関心層等)	
	無料アプリゲームへの広告		
▶ 特定の人に向けた普及啓発	デジタルサイネージ(電子看板)		動画(15秒版)
	病院の待合室等	患者・家族	
	公共交通機関	通勤者層	
	商業施設	ファミリー層	
	誰から	誰に	何を使って(一例)
	幼稚園・学校職員	園児・生徒	紙芝居
	消防職員	応急手当講習会、出前授業等の参加者	短編アニメーション
	医療関係者	市民向け講座の参加者	動画(3分、15秒版)
	民生委員	高齢者世帯、一人暮らしの高齢者	小冊子
	自治区・老人会		
	ケアマネ・訪問看護師		

3. 緊急度判定支援ツールの配布方法

次に、緊急度判定支援ツールの配布方法の例について、以下のとおり示します。下記を参考にして住民に支援ツールを届け、住民自身による緊急度判定を積極的に行うよう促してください。

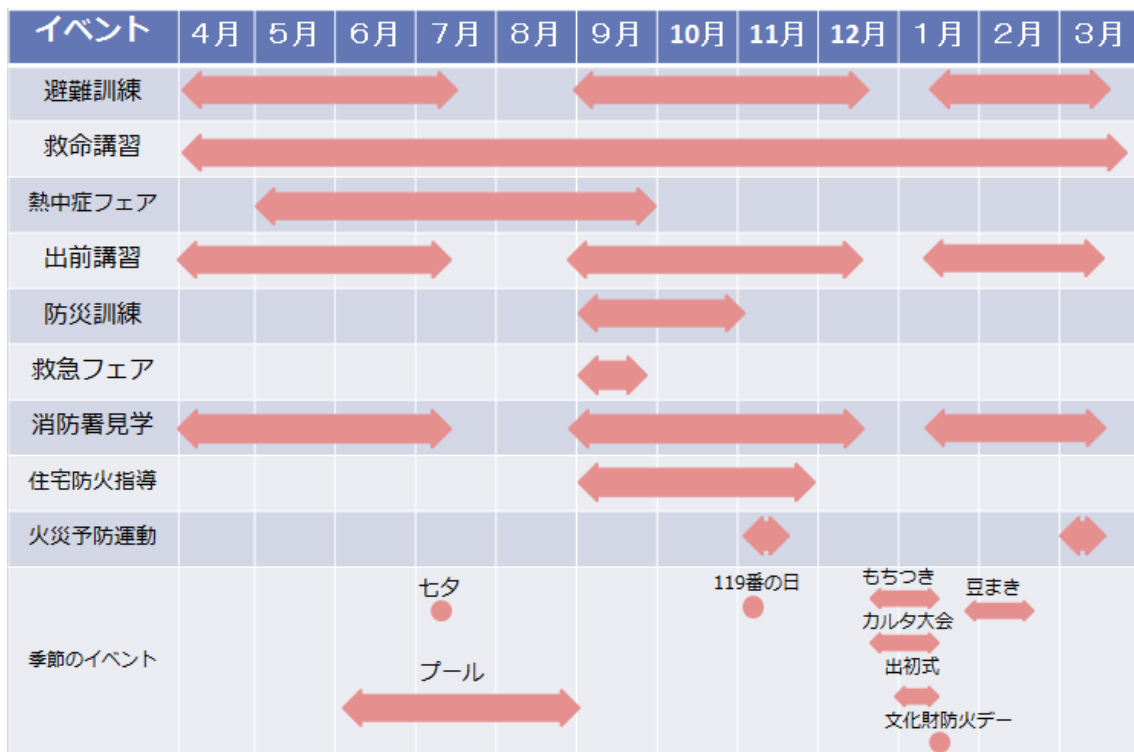
図表 23 緊急度判定支援ツールの配布方法の例

誰から	誰に	何を使って	どうやって
行政職員(保健師等)	母親	リーフレット(子ども版)	乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)の訪問時や妊婦教室時等に手渡し
子育て支援センター			健診時等に手渡し ※
医療関係者			センター訪問時に職員から手渡し
民生委員	患者	救急情報シート	診察時、会計時、退院時等に手渡し ※
自治区・老人会			訪問時、集会時等に手渡し ※
ケアマネ・訪問看護師			ケアプラン作成時や訪問看護後に手渡し
消防職員	高齢者世帯、一人暮らしの高齢者	救急受診ガイド(冊子)リーフレット(高齢者版)	講習会時等に手渡し ※
学校の教職員	介護職		講習会時や保護者の後、PTA研修会等時に手渡し ※
マンション管理会社	救命講習受講者出前授業等の参加者		※関心のある項目だけを選択して持ち帰ってもらうことも可能とする
行政職員	生徒(子ども)の親	救急受診ガイド + リーフレット(子ども・成人・高齢者版)	全戸配布又はマンション内掲示板に掲示
行政職員	マンション住民		市報等へ同封する
行政職員	一般住民		住民へ配布する広報紙やチラシにQRコードを掲載し、ダウンロードしてもらう
行政職員	一般住民	救急受診アプリ	

4. 消防本部の各種行事での普及啓発の機会

下記に消防本部の普及啓発の機会となる主なイベントをまとめました。このような機会を有効に活用し、概念普及コンテンツによる緊急度判定体系の概念の普及及び緊急度判定支援ツールによる住民自身の緊急度判定を積極的に普及していただきますようお願いいたします。

図表 24 各種事業での普及啓発の機会



第10章 Q&A

以下に、緊急度判定体系の説明する際に、住民から想定される質問の回答例を記載します。

【Q】救急隊の現場到着時間が延びていくと、どのようなことが懸念されるか？

【A】救急出場件数が多くなれば、必然的に遠くの救急隊が出場する確率が高まるため、現場への到着時間が遅れてしまい、救える命が救えなくなる恐れがあります。例えば、心肺停止の傷病者に心肺蘇生法を開始する時間が1分遅れるごとに、命の助かる割合は7%～10%低下していき、10分経過してしまうと、ほぼ助からない状態となってしまいます。また、心臓が完全に停止し、脳に酸素が送られない状態が3～4分以上続くと、助かっても重い後遺症が残る恐れがあります。

【Q】救急車の数は、足りていないのか？増やすことはできないのか？

【A】消防庁が「消防力の整備指針」という基準を示しており、その基準を参考に各消防本部で救急隊を配備しています。ただ、救急要請の中には、緊急性の低い要請もあるため、本当に緊急に医療機関に搬送する必要がある方に一番近くの救急隊が向かえない状況も起こっています。また、救急車を増やすことは容易ではありません。救急車は、住民の方々に納めていただいた税金などを元に購入しなければなりません。また、救急車を増やすと職員数も増やす必要があるほか、維持費も増加します。簡単に救急車を増やすことはできないのです。

【Q】軽症者が約半数を占めているが、これは救急車が不要だった事例なのか？

【A】「軽症」とは、初診時の医師の判断で傷病程度が入院を必要としないものが分類されています。例えば、骨折した傷病者等で、救急搬送と早期の治療が必要であるが、入院は不要で通院による治療が必要と判断された場合には、傷病程度が「軽症」となります。よって、軽症だからといって全て救急搬送が不要だったわけではありません。

【Q】救急車を有料化しないのか？

【A】救急搬送件数は、高齢化の進展等によって、近年ほぼ一貫して増加しています。しかし、救急搬送件数の増加に救急隊数の増加が追いつかず、地域によっては真

に必要な傷病者への対応が遅れ、救命率に影響が出かねない状況となっています。このため、急な病気やけがをしたときの緊急性の判断を支援するために、救急受診アプリや救急受診ガイドの利用や、住民の救急相談に応じる電話相談窓口の利用をお勧めしています。また、医療機関への入退院や通院、転院、社会福祉施設への送迎など、緊急性の低い傷病者の搬送については、民間事業者の活用を促進しています。一部有料化については、平成 27 年度救急業務のあり方に関する検討会においても多くの課題が指摘されており、こうした課題について国民的議論の下で検討し、合意を得なければならず、引き続き慎重な議論が必要です。まずは、上記の取組をさらに進めることとしています。

【Q】救急車以外に、医療機関へ行く手段には何があるか？

【A】まず、家族や近隣の住民の方の車があります。普段から関係作りに努めていただき、急な病気やけがをしたときに、お互いに助け合っていたいただきたいと思います。公共交通機関のバスやタクシーなどもあると思いますので、普段から時刻表や連絡先を確認しておいてください。

また、患者等搬送事業者というベッド等を備えた専用車を用いて患者の搬送を行う事業者を消防本部が認定していますので、是非ご活用をお願いします。（詳しくは各自治体の HP をご覧ください）

【Q】自分で緊急度を判定することが難しいときにはどうすればいいか？

【A】まずは、いつも一緒にいるご家族や、日頃からお世話になっているヘルパーさん、かかりつけ医などに相談してください。地域によっては、救急安心センター事業（＃7119）等で救急相談を看護師等が受け付ける取組を行っているところもあります。また、消防庁が作成した救急車利用リーフレット（子供、成人、高齢者版）がありますので、家の冷蔵庫等に貼ってもらい、リーフレットに書いてあるような緊急性の高い症状のときは、迷わず救急車を呼んでください。

【Q】救急受診アプリやガイドは、何を基準に作っているのか？

【A】消防庁の研究班で救急医療の専門医師や消防本部の職員により医学的な観点に基づいて作成されたプロトコル（手順書）を元に作っています。

【Q】救急車利用リーフレットや救急受診ガイドはどこで入手できるか？

【A】消防庁 HP に掲載していますので、自由にダウンロードしてご使用ください。

【Q】救急電話相談の窓口は、この地域にもあるのか？

【A】（ある場合）この地域では、●●●●●にかければ看護師等の相談を受けられます。

（ない場合）この地域には救急電話相談の窓口はないので、かかりつけ医などの
医療機関に相談してください。

【Q】全国版救急受診アプリは有料なのか？

【A】無料です。アンドロイドは Google Play、ios は Apple Store からダウンロード
してご利用ください。

第11章 付録

住民への説明ツール（PowerPoint）

消防職員等が住民に説明するために使えるツールとして、PowerPoint のデータを作成しました。内容は、「救急車利用の現状」「救急車の役割」「緊急度判定体系普及の必要性」「緊急度判定支援ツールの紹介」等となっています。

PowerPoint には、標準的な説明用の文章をノート部分に入れてあるため、誰でもそれを読めば十分に伝えられるようになっています。消防庁 HP に掲載していますので、地域の情報を自由に入れてカスタマイズする等、積極的にご活用ください。

図表 25 住民への説明ツール（PowerPoint）



【PowerPoint 上への動画（6 分版、15 秒版）の掲載方法】

① インターネットの環境にある場合

消防庁 HP の救急お役立ちポータルサイト内にある「動画」を掲載している画面の URL を該当スライドに掲載しておく。

② インターネット環境がない場合

消防庁 HP から事前に動画をダウンロードしておいて、ハイパーリンクでつないでおく。